

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 2 回「東京電力福島第一原子力発電所事故以降の低レベル放射性廃棄物処理処分の在り方」研究専門委員会
開催日時	平成 26 年 2 月 6 日(木) 13:00~16:00
開催場所	日本原燃 株式会社 東京支社 第1会議室
参加人数	委員 16 名(井口主査, 菊池幹事, 高橋幹事, 宮内幹事, 池田委員, 市川委員, 榎戸委員, 勝田委員, 加藤委員, 小崎委員, 朽山委員, 新堀委員, 長谷川委員, 柳原委員, 山本委員, 吉田委員), 常時参加者 10 名, オブザーバ 2 名, 事務局 5 名
議 事	<p>1. 第 1 回専門委員会議事録の確認 第 1 回専門委員会議事録は特にコメントはなく確認された。</p> <p>2. ウランを含む廃棄物の浅地中処分に対する課題について 過去におけるウランを含む廃棄物の処分に向けた検討の経緯、ウランを含む廃棄物の処分・管理の対応における考え方、及び研究施設等廃棄物の第二種廃棄物埋設における浅地中処分方法の検討方針と課題について、議論が行われた。</p> <p>3. 低レベル放射性廃棄物処理処分技術の体系化等に関する検討課題について アウトプットの具体的なイメージについて、議論が行われた。アウトプットについては、今までの技術の体系化に関する調査結果をニーズの観点から評価した上で、報告書にまとめることとなった。</p> <p>4. 低レベル放射性廃棄物処理処分技術の推進のための理解活動等に関する検討課題について 検討課題の絞り込みについて、議論が行われた。次回以降、委員から報告を含め、具体的な事例や調査結果について議論することになった。</p> <p>5. バックエンド分野に関する人材確保および育成の方策について (1) バックエンド分野に関する人材確保および育成の方策に関する検討課題について アウトプットの具体的なイメージについて、議論が行われた。技術のニーズと大学の人材育成とは緊密な関係があり、これを認識した上で考える必要があること、バックエンド分野の人材需要の予測は、大学として大変有用な情報であるとの意見があった。次回以降、大学における人材育成の実例紹介を行うことになった。</p> <p>(2) バックエンド対策に係る人材育成について</p>

	<p>委員より、福井大学で進めているバックエンドに係る人材育成について、特に廃止措置の基礎・基盤研究と人材育成の考え方、廃止措置工学の方針と体系及び実際の施設を有効活用した教育等の廃止措置工学に係る教育を中心に報告があった。</p> <p>(3) 英国におけるバックエンド分野の人材育成について</p> <p>常時参加者より、英国におけるバックエンド分野の人材育成について、主にマンチェスター大学の事例として英国の大学制度、マンチェスター大学の原子力教育やバックエンド研究についての調査結果の報告があった。次回以降、IAEAが策定している教育体系及びバックエンド関係のカリキュラムについて報告することとなった。</p> <p>6. その他</p> <p>      次回の委員会の開催は、4月以降とする。</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 1 回「東京電力福島第一原子力発電所事故以降の低レベル放射性廃棄物処理処分の在り方」研究専門委員会
開催日時	平成 25 年 11 月 19 日(火) 13:30~16:30
開催場所	日本原燃 株式会社 東京支社 第1会議室
参加人数	委員 17 名(井口主査, 菊池幹事, 高橋幹事, 宮内幹事, 池田委員, 市川委員, 出光委員, 榎戸委員, 大場委員, 勝田委員, 加藤委員, 小崎委員, 朽山委員, 長谷川委員, 柳原委員, 山本委員, 吉田委員), 常時参加者 10 名, オブザーバ 2 名, 事務局 5 名
議 事	<p>1. 主査挨拶及び委員の紹介</p> <p>主査から委員会開催にあたり、低レベル廃棄物の処理処分技術の体系化、ウラン廃棄物の規制、低レベル廃棄物の処理処分の理解活動、バックエンド分野の人材育成という 4 つの課題について議論するなかで色々な提案を頂きたいとの挨拶があった。その後、各委員、常時参加者等の紹介を行った。</p> <p>2. 設立主旨の説明</p> <p>事務局より委員会の設立主旨について説明があった。</p> <p>委員より福島原発事故に関連する内容については、他の委員会等での取り組みと重複しないように整理したうえで、本委員会ではオフサイトに関わることを検討するべきとの提案があった。</p> <p>3. 検討課題について</p> <p>3.1 ウラン廃棄物処分の考え方</p> <p>事務局よりウラン廃棄物の概要、今までの関連法制度の状況、欧米のウラン廃棄物を含む処分場等について説明があり、処分方法・管理方策に係る課題について議論がなされた。</p> <p>主査よりウラン廃棄物が第二種埋設の対象から除外された理由、過去の議論も含めて論点を整理するように提案があった。</p> <p>3.2 低レベル放射性廃棄物処理処分技術の体系化等に関する検討課題</p> <p>事務局よりバックエンド分野の技術開発動向について説明があり、バックエンド技術の体系化や役割分担の課題について議論がなされた。</p> <p>主査より技術の分類にあたって階層構造における要素技術の考え方、バックエンド分野の裾野を広げる方策が論点であるが、他にも様々な切り口があるので、枠組みを決めて内容を詰めていきたいと提案があった。</p>

	<p>3.3 低レベル放射性廃棄物処理処分の推進のための理解活動等に関する検討課題</p> <p>事務局より低レベル放射性廃棄物処理処分に係るこれまでの理解促進活動の現状について説明があり、今後の理解促進活動の在り方に対する観点について議論がなされた。</p> <p>主査より現状の操業している施設に関するリスコミ、廃棄物処理処分の必要性を理解してもらうためのステークホルダーを含めたコミュニケーションの在り方などに関するコメントがあったので、議論の的を絞るために検討内容を明確にするように提案があった。</p> <p>3.4 バックエンド分野に関する人材確保・育成の方策に関する検討課題</p> <p>事務局より原子力人材育成の取組みについて説明があり、今後のバックエンド分野における人材確保・育成の方策に対する課題について議論がなされた。また委員より岡山大学 耐災安全・安心センターについて説明があった。</p> <p>主査よりバックエンドの将来展望を示すとともに将来の廃炉についても考慮して人材育成・確保の方策を検討していくべきとの提案があった。</p> <p>4. その他</p> <p>事務局より委員会スケジュール案について説明があった。次回委員会の開催日は、平成26年2月4日または6日を候補として、詳細は調整の上、別途連絡することとなった。</p>
備 考	